

第 255 回 昭和の森自然観察会

昭和の森から小食土の里を歩く

綾 富美子 (千葉市)

日 時：2013 年 3 月 10 日(日) 13 時～15 時 30 分

参加者：25 名(大人 24 名・子ども 1 名)

指導員：20 名 担当指導員：武田宏子・川北紀子・綾 富美子

昭和の森 3 時間コースは年 1 回実施する外歩きで、人気の観察会です。今回は元旦の初日の出のスポットとして人気のある園内の展望台、この展望台(標高 101m)からは九十九里浜平野(標高 10m)や太平洋迄一望出来ます。この高台の成り立ちを探ってみるのも面白いかと思い企画しました。

この場所は大昔(約 12 万年前) 海であった事、その後海面の低下(12 万～5 万年前)により海底が陸地になり、更に陸地が隆起し、再び海面が低下(2 万～1 万年前)して崖線を作った事、その後海面上昇があり現在に到っている事を絵図で説明しました。まず展望台まで行き、遙か九十九里浜平野を眺め、高低差が 60～80m ある事を実感して頂き、これから下る崖は市原市から東金市にかけて長く続く下総台地の東縁であると説明しました。崖の途中、地層が良くわかる地点で観察です。上部は赤土の関東ローム層、その下はかつて海底であった砂層の木下層や金剛地層、その下に砂泥互層の市野々砂泥互層です。砂層からは貝化石や底生生物のフサゴカイ類の巣穴の生痕化石が見られました。これらの貝は外洋性と内湾性の二枚貝その他で、これから見て海が陸地化したその上に河の地層が積もった事がわかります。

では崖はどの様にして作られたのでしょうか。崖を下った低地の地層は前記の地層に更に下の古い地層で笠森層と言われるよく締まった団結した地層です。2 万～1 万年前に海底が下がり、太平洋側の河が発達して台地の砂層を削りながら分水界を東京湾側に移動させ、移動して来た分水界は砂層の所で崖線を作ったと考えられます。この崖を中心に、大昔から現在迄の地形の変化が少し理解して頂けたと思います。

崖を下ると九十九里自然公園(大網白里市)です。小中池は全国ため池 100 選に選ばれた景色の素晴らしい所で丁度、川津桜や寒緋桜が満開でした。一息ついて清々とした田舎道を進むと今時珍しい素堀りのトンネルを抜け小食土町に入りました。このトンネルは笠森層です。このトンネルの主はオオゲジ(千葉県が北限)で、もう随分長い年月このトンネルの穴に潜んでいます。本日は残念ながら留守でした。

ようやく春の気配が感じられる道から、再び公園に上る山道に入りました。この坂道の途中にも僅かに貝層があり、息を切らし上ると八幡神社が我々を迎えてくれました。公園は空が茶色で、前方が霞んで異様でした。「煙霧」と言って関東平野の砂や埃が強い北西の風で運ばれた事を後で知りました。大変印象に残る現象でした。

